

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	現代社会
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般人文科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	現代社会（東京書籍）					
担当教員	根本 聡					
到達目標						
1. 現代社会の特質について、多面的に理解することができる。 2. 現代社会における四つの主要な問題、すなわち環境問題、経済問題、政治問題、国際問題について、理解することができる。 3. 国際社会における宗教や科学をめぐる問題と日本の役割について、考察を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	現代世界の特質について説明することができる。		現代世界の特質について理解することができる。		現代社会の特質について理解することができない。	
評価項目2	現代社会の主要な諸問題について説明することができる。		現代世界の主要な諸問題を理解することができる。		現代社会の主要な諸問題について理解することができない。	
評価項目3	文化の多様性について説明することができる。		文化の多様性について理解することができる。		文化の多様性について理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第一に、現代社会の基本性格について、理解する。 第二に、現代社会における四つの主要な問題、すなわち環境問題、経済問題、政治問題、国際問題について、理解を深める。その際に、国際社会における日本の役割について、問題の背景にある原因や、世界の様々な宗教や思想をふまえたうえで、多面的に考察することを目指す。 第三に、総じて、世界における文化の多様性について、理解を深める。					
授業の進め方・方法	第一に、現代社会の基本問題にどのような視点をもつべきか、問題の所在を検討する。 第二に、概要にあげた現代社会における四つの主要な問題に、順番にしかも多面的に接近する。その際、これらの四つの諸問題に対する、国際社会における日本の役割についても、考察を深める。 第三に、総じて、世界における文化の多様性についての理解を深めることを目指す。					
注意点	第一に、身のまわりの問題から出発して、何が問題であるか、問題を提起することが重要である。 第二に、情報の出所や問題の背景を理解しようとする姿勢が重要である。 第三に、自ら調べ、自ら考える姿勢が望まれる。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	現代社会の諸問題について		わたくしたちの生きる社会についての基本的諸問題について理解することができる。	
		2週	環境問題について（1）		環境問題について理解することができる。	
		3週	環境問題について（2）		環境問題の問題点について考察を深めることができる。	
		4週	資源・エネルギー問題について（1）		資源問題について理解し、考察を深めることができる。	
		5週	資源・エネルギー問題について（2）		エネルギー問題について理解し、考察を深めることができる。	
		6週	科学技術の問題について		科学技術の発達と生命の問題について理解し、考察を深めることができる。	
		7週	情報化社会の問題について		情報化社会の問題点について理解し、考察を深めることができる。	
		8週	哲学について		公共性の哲学について理解することができる。	
	2ndQ	9週	宗教について		文明と宗教についての基本事項を理解することができる。	
		10週	民主政治について		民主政治の原理と基本的人権について理解し、考察を深めることができる。	
		11週	日本国憲法について		憲法の原理と日本国憲法の特質について理解することができる。	
		12週	日本の政治機構について		日本の政治機構の特質および三権分立について理解し、考察を深めることができる。	
		13週	現代政治の特質について		地方自治および選挙について理解し、考察を深めることができる。	
		14週	現代政治の特質について		世論と政治参加をめぐる諸問題について、世界の動向をふまえて理解することができる。	
		15週	前期末試験			
		16週	答案返却と解説 法の支配について		法治社会の本質について、世界の水準をふまえて理解することができる。	
後期	3rdQ	1週	経済とは何か		産業革命以降の経済社会の成立について、理解することができる。	
		2週	経済のしくみ		需要と供給の理論について理解することができる。	
		3週	市場経済について		市場経済のしくみを理解することができる。	
		4週	銀行について		中央銀行の役割について理解することができる。	
		5週	財政について		経済領域に対する政府の役割と財政について理解することができる。	

		6週	日本経済について（１）	戦後の日本経済の特質について、その概略を説明することができる。
		7週	日本経済について（２）	過去二十年間の日本経済の現状について、説明することができる。
		8週	豊かな生活について（１）	生活に根ざした経済社会とは何か、消費者の視点をふまえて理解することができる。
	4thQ	9週	豊かな生活について（２）	現代の労働・雇用問題について理解し、考察を深めることができる。
		10週	国際経済について（１）	貿易と国際分業について理解することができる。
		11週	国際経済について（２）	国際為替のしくみや経済のグローバル化について理解することができる。
		12週	国際政治について（１）	国際紛争に対処するための方法を考察することができる。
		13週	国際政治について（２）	核兵器や軍縮への取り組みについて理解することができる。
		14週	民族問題について	民族問題の背景を理解することができる。
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説 戦争と平和について	世界における戦争と平和について考察を深め、日本を役割を提案することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	2	前1,前9,後12,後13,後14,後16
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	2	前8,前9,後12,後13,後14,後16
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	2	前1,前8,前9,後14,後16
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	前8,前9
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	前8,前9
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	前8,前9
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	前10,前11,前12,前13,前16
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	2	前7,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	前1,前4,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後13,後14
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	前6,前7,後13
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	2	前1,前4,前6,前7,後13
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	後10,後11,後12,後13,後16
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	前1,前2,前3,前4,前6,後12,後13,後16
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	前2,前3,前4,後12,後13,後16
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	前6,前7
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	2	前2,前3,前4
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	2	前4,前7
				歴史の大きな流れの中で、科学技術が社会に与えた影響を理解し、自らの果たしていく役割や責任を理解できる。	2	前6,前7
		技術史	技術史			

		グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前2,前3,前 4,前7,後 11,後12,後 13,後14,後 16	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
態度・志向性 (人間力)	10	0	0	0	0	0	10
総合的な学習経験 と創造的思考力	10	0	0	0	0	0	10